

【保育の計画性】

内 容		保育士評価	園長評価	保護者評価	委員評価
1. 保育の理念・保育方針の理解					
①	保育の理念や保育の基本方針を理解し、子ども像や保育の目標を覚えている。	4	4	3.4	4.3
2. 保育所保育指針の理解					
①	保育所保育指針を理解し、幼児の姿や環境の構成、保育者との関わりなど具体的な事例を思いうかべることができる。	4	4	3.5	4.3
3. 指導計画の作成					
①	指導計画は子どもたちの実情を理解し、幼児の関心やこれまでの生活や、予想されるこれからの生活を考慮し作成している。	4.5	4	3.6	4.7
②	行事は、幼児の生活上の意義を十分検討した上で、指導計画に組み入れている。	4.5	4	3.8	4.7
4. 環境の構成					
①	指導計画に基づいて、幼児が主体的に関わりたくなるような動線に配慮し、安全で清潔感のある環境構成をしている。	3.8	4	3.9	4.7
②	楽しい雰囲気の中で安定して遊べるように、遊具や用具、素材などを配慮して環境構成している。	4.4	4	4	4.3
③	幼児の活動がより豊かになるように幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている。	4	4	3.9	4.7
④	幼児の発達や生活を把握し、季節の変化に応じた環境構成の他、子どもの成長を援助できるような配慮をしている。	4.2	4	3.9	4.7
⑤	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている。	4.2	4	4	4.7
5. 保育と計画の評価・反省					
①	自分の保育と評価・反省について、次の保育と計画に活かせるように行っている。	4	4	3.9	4.8
②	お互いに保育を見せ合い、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている。	4	4	3.6	5

【保育の在り方、園児への対応】

内 容		保育士評価	園長評価	保護者評価	委員評価
1. 健康と安全への配慮					
①	登園時は家庭からの連絡をもとに視診・触診をして、乳幼児の健康状態を確かめている。	4.6	4	4	4.3
②	体調が悪そうな時は寝かせたり検温するなど、適切な処置を行い個々の状況に応じて保護者へ連絡している。	5	5	4.3	5
③	担任と当番保育士の引き継ぎを行うとともに、降園時に体調の変化等連絡事項を保護者に伝えている。	4.8	4	5	4.7
④	保護者から健康状態の申し出を受けるなど、乳幼児の健康情報を共有し、アレルギー、熱性痙攣、脱臼癖などの既往症について把握している。	4.8	4	3.9	4
⑤	体重・身長などの測定を定期的に行い、家庭に知らせるとともに、心身ともにバランスの取れた発達が促されるように配慮している。	4.2	4	4.1	4.7
⑥	睡眠が十分取れるような静かな環境を整え、午睡の状態(呼吸・顔色・嘔吐・汗)、およびSIDS(乳幼児突然死症候群)のチェックを記録している。	3.6	3	3.6	4.7
⑦	食物・栄養についての基礎知識を持ち、無理なく食育を推進出来ている。	4.2	4	4	4
未 満 児	⑧ 家庭と連携を取りながら一人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ、食への意欲を育てている。	4.3	4	3.8	4.3
	⑨ 一人ひとりの排泄間隔を把握し、その子の排泄のリズムに合わせてオムツ交換をしたり、トイレに促している。	4.3	4	3.9	4.3

2. 指導と援助		保育士評価	園長評価	保護者評価	委員評価
未 満 児	① 落ち着いた雰囲気の中で抱いたり語りかけたりして、乳幼児が人との関わり楽しさや心地よさを味わえるようにしている。	4	4	3.8	4.7
	② 泣いたりぐずったりのサインを見逃さず、基本的要求に応じた適切な対応をしている。	3.6	4	4	4.7
以 上 児	① 幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受け入れ認めるようにしている。	4.5	4	3.8	4.7
	② 幼児の話をよく聞くなど、幼児との温かなやりとりやスキンシップを心がけている。	4.5	4	3.9	4.7
	③ 乳幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察して受け止め、信頼関係を築いている。	4.6	4	4	4.7
	④ 一人ひとりの乳幼児の発達課題について見通しをもって保育している。	4.6	4	4.2	4.3
	⑤ 乳幼児の心身の発達及び生活の連続性に配慮し、好奇心や発達を促す環境を整えて保育している。	4.2	4	3.6	4.3
	⑥ 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみ取り、安心感と自己肯定感が持てるような言葉がけをしている。	4.2	4	3.8	4.3
	⑦ 必要以上に大きな声を出さず、ほめたり、励ましたり、めあてを持たせるような言葉がけをし、禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせるような言葉や態度は控えている。	4.6	4	3.8	4.3
	⑧ 乳幼児期は身体的条件や生育環境などの違いにより、一人ひとり心身の発達に個人差が大きいことを理解し関わっている。	4.6	4	3.6	4.3
3. 保育者同士の協力・連携					
	① 保育者全員が情報を共有し、クラスに関係なく、その場にいる保育者が適切な言葉がけや対応をしている。	4.4	4	3.7	3.7
	② 指導上配慮を必要とする乳幼児については、園全体で話し合い共通理解を持って工夫し対応するようにしている。	4.8	4	3.4	3.7
	③ 他クラスや異年齢児との触れあう機会がもてるように、さまざまな工夫、保育の形態に配慮している。	4.6	4	4	4

【保育者としての資質や能力・良識・適性】

内 容		保育士評価	園長評価	保護者評価	委員評価
1. 専門家としての能力・良識・義務					
	① 保育にたずさわる者として、専門知識や技能を身につけている。	4	4	3.8	4
	② 保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことを分かりやすく話す事ができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている。	4.4	4	4	4.3
	③ 保育者が子どもたちに影響を与えることを自覚している。	5	5	4.2	4.7
	④ 幼児や保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている。	5	5	3.8	4.7
	⑤ 朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉で表している。	4.8	4	4.5	5
	⑥ 服装、髪型、身だしなみなど清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている。	4.6	4	4.6	4.3
	⑦ 締切のある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている。	4	4	4.6	4.7
	⑧ 保育に関して自分が知らなかったこと等、素直に受け入れることができる。	4.2	4	4.4	4.7
2. 組織の一員としての在り方					
	① 他の意見を素直な気持ちで聞く。また、自分の意見を述べるができる。	4.2	4	3.8	4.3
	② 子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは、園長や係長に報告、連絡、相談している。	4.6	4	4.2	4.7
	③ 当番や役割による仕事を理解し確実にやっている。	4	4	4.6	4.3
	④ 上司の指示、指導は責任を持って実行している。	3.6	3	3.8	4.3
	⑤ 担当クラス以外の業務も必要に応じて協力し合っている。	4.6	4	4.2	4.3
3. まわりを感じ取れる感性・アンテナ					
	① 乳幼児や教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている。	3.8	3	3.8	4.3
	② 社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている。	4.2	4	4.2	4.3

(NO2)

【地域の自然や社会とのかかわり】

内 容		保育士評価	園長評価	保護者評価	委員評価
1. 地域の自然・人々とのかかわり					
①	地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している。	4.5	4	4	4.3
②	実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的な立場で接している。	4	4	3.8	4.3
③	中高生の保育体験、ボランティアを受け入れるときは、その目的や意義を理解・確認している。	4	4	3.8	4
④	高齢者との交流のために、近隣施設に交流・行事への参加の呼びかけなどを積極的に行っている。	2.4	3	3.2	3
2. 小学校との連携					
①	園の保育内容が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解している。	5	5	3.6	4.3
②	小学校の教育内容について理解するよう努めている。	3.6	3	3.8	3.7
③	小学校が、園での子どもの育ち等について、どのような情報を必要としているのか理解するよう努めている。	3.6	3	3.2	3.7

【保護者への対応・守秘義務】

内 容		保育士評価	園長評価	保護者評価	委員評価
1. 情報の発信と受信					
①	一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している。	3.8	3	4.2	3.7
②	クラスだよりなどで、保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を分かりやすく伝える工夫をしている。	4.4	4	4.5	4.3
③	個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳、電話などを使って伝えあっている。	3.8	4	4.5	4
④	保育参観や保護者面談を行い、子どもについて、保育や家庭でのあり方について共通理解を得るように努めている。	3.2	3	4.2	3.7
⑤	保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	4	4	3.8	4
2. 協力と支援					
①	保護者からのさまざまな訴え、要望、意見について、園長や係長に報告や相談をしている。	4.6	4	3.8	4.7
3. 守秘義務の遵守					
①	保護者、入所児童、また職場に関する秘密は絶対に他言しない。	4.8	4	3.8	4.7
②	個人情報に関する書類・電子データの管理を適切に行い、外部へは持ち出さない。また、必要が無くなった場合は適切に処分している。	4.8	4	3.8	4.7
③	保護者からの相談内容、子どもの言葉、他の保護者との雑談等で得た情報は、園長、係長に報告し、外部に漏らさない。	5	5	3.6	4.7
④	個人情報の書類、電子データのコピーは施設長の承認を受けた物のみ、必要最小限にし、必要が無くなった場合は適切に処分している。	4.6	4	3.6	4.7
⑤	秘密情報について新たに知り得たことは、直ちに園長に報告している。	5	5	3.6	4.7
4. 対応上のマナー・良識					
①	正しい言葉づかいをし、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている。	4.2	4	4.2	4.3
②	保護者と親しくなったからといっても、友達のような話し方をしていない。	4.4	4	4.5	4.3
③	電話、保護者からの依頼・伝言については、メモをするなどきちんと対応している。	4.4	4	3.8	4
④	保護者の国籍、思想、宗教により、また、子どもの性差、障害、個人差によって、区別、差別していない。	5	5	4.5	5
⑤	子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するように努めている。	4.4	4	4.2	5

(NO3)

5. クレームへの対処の仕方		保育士評価	園長評価	保護者評価	委員評価
①	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長、係長に連絡、報告、相談している。	4	4	3.8	5
②	クレームになった原因を探り、改善策を考え、実行することができる。	4.4	4	3.8	4.3

【保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度】

内 容		保育士評価	園長評価	保護者評価	委員評価
1. 研修・研究への意欲・態度					
①	保育士としての基本である研修に取り組む意欲を持っている。	4.8	4	3.8	4.3
②	指定された研修以外に、自分で知りえた研修への参加伺いができる。	2.8	3	3.6	4.3
③	保育に関して自分の知識や技術を同僚に教えることができる。	3.6	3	3.8	4.3
2. 今日的課題に関する専門性の向上					
①	子どもを取り巻くさまざまな状況について、背景・原因・実態はどうであるか興味・関心を持っている。	4.6	4	3.6	4.3
②	アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心を持っている。	4.8	4	3.8	4.7
③	小学校との連携の意義やあり方について興味・関心を持っている。	4.4	4	3.2	3.7
④	子どもたちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもっている。	4.8	4	3.6	4.3

【地域における子育て支援】

内 容		保育士評価	園長評価	保護者評価	委員評価
1. 自園の子育て支援事業の理解					
①	地域開放(園解放・行事など)について職員間で共通理解の上、取り組んでいる。	3.6	3	3.2	4.3
②	親しみやすい雰囲気を心がけ、利用者に積極的に声をかけている。	4	4	3.8	4.7
③	自園の子育て支援事業について理解し、保護者や地域住民等にパンフレットやおたよりでわかりやすく説明できる。	3.2	3	3.2	4

【委員評価】

--	--

※記載にあたってのめやす

- 5 ～ 十分できていると思う
- 4 ～ ほぼできていると思う
- 3 ～ どちらでもない
- 2 ～ やや不十分と思う
- 1 ～ 不十分と思う

保育士	園長	保護者	評価委員	総合
4.3 点	3.9 点	3.9 点	4.4 点	4.1 点

(NO4)